

月報

94号

発行所

青丘文庫

編集・発行★雑誌部
〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1
メゾン・青丘ビル2F
TEL (078) 734-5989
FAX (078) 735-8668

在日朝鮮人運動史研究会 第一六四回例会

教育と植民地支配

佐野通夫

佐野『近代日本の教育と朝鮮』(社会評論社、一九九三年)序論・第三部、および次のような最近の出版物を通して国籍と民族を考えた。

●在日朝鮮人社会・教育研究所編『在日朝鮮人』(晩聲社、一九九三年)

この本の民族の捉え方は戦前日本、大日本帝国臣民の「大和魂」と変わらない。国家のために国民は存在し、その証が国籍だという考え方である。それを『朝日新聞』の学芸欄が取り上げ、小此木政夫を使って「在日朝鮮人の抱える問題を、人権論で本当の解決ができるのかとの問題提起は、見過ごすことができない」と記事(一九九三年五月二十九日)にしてしまう辺りは、危ない。「民族」とは、具体的に奪われているもの(例えば言葉でも、生活習慣でも)があるときに、それを奪い返す際の抵抗の論理である。奪われているものを奪い返すということであるはずの「人権」の主張を否定する「民族」の論理など、とうてい信じられるはずがない。

●高賛侑『アメリカ・コリアタウン』(社会評論社、一九九三年)

わずか一月の取材で、それも形成経緯の違う、韓国系アメリカ人を在日朝鮮人と比定しようという、かなりの無理が感じられる本であるが、このような本が現れることに見られるように、近年、ハ大V朝鮮主義というハ大V韓主義というか、朝鮮半島の外に居住する朝鮮人を併せて「ハ〇〇〇万同胞」と呼称したり、海外居住朝鮮人に対する関心が高まったりしている。このことは、(朝鮮)民族という概念が、抵抗の概念から、支配の概念に変わりつつあること(大和がそうであるように)を、示すのではないかと、懸念を与えるものである。在日朝鮮人と韓国系アメリカ人は、その形成史や背景が異なる。在日朝鮮人との比定というならば、在ロシア

朝鮮人の方が、まだ近いものを持っているといえるだろう。そして、現在の違いに日本社会とロシア社会の比較を見ていくことができるであろう。アメリカ合衆国において見るならば、アフロ・アメリカンとの在日朝鮮人との比較こそが類似した側面を持つであろう。

●露沢南『ケナリも花、サクラも花』(新潮社、一九九四年)二五歳。祖母の一人が朝鮮人。だから「四分の一の祖国・韓国」。

「わたしは日本の国籍を持ち、何バーセントかの朝鮮民族の血を持っている。しかし家庭はまるまるの「日本ふう」で、かなりの年齢になるまで自分のことをまるまるの日本人だと思っていた。『そういう人』である」(一五七頁)。

●姜信子『ごく普通の在日韓国人』(朝日新聞社、一九八七年)二六歳。

「日本人でもない。朝鮮半島に生きている韓国人とも同じでもない。(略)日本という文化・風土の下で、朝鮮民族の血を持つ私が、被差別体験という触媒により、『在日韓国人』になった。(略)そして、日本で日本人と共に生きる、韓国人ならぬ『在日韓国人』として、普通の口調で、通じる言葉を探して、日本人に語りかけるのである」(二二頁)。

露沢や姜の感覚は佐野に近いものであるが、高校入学に際して本名で通おうとした姜父子に対して事務局員は「皆さん通称をお使いですよ」と対応、卒業証書も「姜で書いてください」と言ったにもかかわらず、呼ばれたのは「竹田存子」であったという日本の状況を併せて考えていかねばならないだろう。

朝鮮民族運動史研究会 第134回例会(94年3月13日)
 日帝下朝鮮における小作争議

飛田 雄一

90年5月に研究会で報告した「日帝下・小作争議に関する官憲の統計をめぐる」の統編の報告を行なった(『月報』56号参照)。次号の『朝鮮民族運動史研究』10号に、朝鮮の小作争議をテーマに論文を書く予定であるが、そこでは、従来の研究における小作争議に関する統計数字の扱いに關しての問題点を指摘することが第一の目的である。それとともに、当時の農民運動の客観的な運動力量を調べる基礎としての小作争議の統計分析をしたいと考えている。

日帝下朝鮮における小作争議に関する朝鮮總督府の統計は、農林局系のもので警務局系のものである。両者は、一九二〇年から二四年までは同じ数字であるが、二五年以降は農林系の数字が多くなり三〇年代後半にはその数字が三桁も違うほどである。今回報告にあたつてできる限り原典にあたつて調査した結果として次のように報告した。

#

① 一九二四年以前の殖産局(農林局)の統計がないとすれば、一九二〇〜三八年まで一貫性のある小作争議に関する統計は、警務局のものである。

② 従つて統計の利用方法としては、農林系のもとは、一九二五〜三九年を連続したものとしてとらえ、警務系のもとは、一九二〇〜三八年のものを連続してとらえるべきである。この連続、不連続を無視して論じることが誤りである。

③ 小作争議の運動力量を過大に表現するために、農林系の数字をあえてもつてくる方法は、事実をねじ曲げるものである(趙東杰、イ・ジャファ)。二つの統計があることを知りながら、作意的に二つの統計を使い分ける方法は、最もよくない(ホ・ジョンマン、浅田喬二)。

④ 一九二〇年代、三〇年代の農民運動は、全体的な流れとしては、小作争議から赤色農民組合運動へと移っているが、この流れを認める人は、小作争議の限界を示す資料の一つとして「警務系」の数字を引用している(池秀傑)。この流れを認め、かつ、ごく小規模の小作争議になったとして農林系の数字を引用している人もいる(柳世熙、朱奉圭、金洛中)。

⑤ 「赤色農民組合」の運動は、小作争議としてカウントされていないのに、赤色農民組合の運動の大きさを強調するために農林系の多い数字を引用するのも、良くない(ホ・ジョンマン)。

#

このまとめに対して、赤色農民組合運動も小作争議にカウントされている場合があるのではないか等の意見が出され、『最近に於ける朝鮮治安状況』の記述などを参考にしながら検討したが、結論をだすには至らなかった。また、『思想彙報』にある少し違った小作争議に関する統計数字および『調査月報』13巻4号(42年4月)にある「小作調停事件受理及び終局状況」と先の二つの統計数字との関連についても論議がなされた。『……運動史研究』の論文では、更に当時の新聞に毎年年末ないし年頭に掲載される総括的な一年間の小作争議に関する記事なども参照しながら、朝鮮の小作争議について整理をしてみたいと考えている。ご意見をお聞かせいただければ幸いです。

新刊図書案内

書名	著者
アメリカの韓国人 ブラジルの韓国移民 アメリカ移民史 日帝下の思想弾圧 韓国に現代사를 한제와 광복전 조선인 군현안부들 韓国教会教団形成史〔上巻〕 韓国神学の鑛脈 韓国教会教団形成史〔中巻〕 韓国基督教新聞・雑誌・百年史 日帝下 民衆教育運動史 韓国臨時政府の民族教育運動史 日帝下の教育理念とその運動 日帝の韓国植民地統治 歴史と教会 朝鮮民主主義人民共和国〔秘録〕上 韓国基督教教会史 朝鮮民主主義人民共和国〔秘録〕下 民族と宗教 韓国教会教団形成史〔下巻〕 韓国社会と基督教 李能和研究－韓国宗教史学を中心に－ 한글과 국문교과서의 기원 (1566~1784) 韓国基督教教会史 북한의 종교정책 韓国教会史 노승익 목사 韓国天主教200年史 韓國初期労働運動研究 韓末在日韓国留學生の民族運動 日本の侵略政策史研究 在蘇韓人－人類学的接近－ 抗日闘争史 大同団實記 朴植の社会思想研究 遺芳集 呂運亨先生闘争史 夢陽呂運亨全集 1 夢陽呂運亨全集 2 臨政と李東寧研究 石吾 李東寧研究 石吾 李東寧手紙 韓国満州關係史の研究 韓滿交流史 研究 国外韓人社会と民族運動 満州韓人民族運動史研究 それと祖国	金 유원 전 경수 李 吉鎔 李 임길용 李 離和 金 중수 金 德換 柳 東植 金 德換 尹 春炳 盧 榮澤 吳 芋均 文 鴻柱 車 基壁 中央日本特別 関 庚培 中央日本特別 趙 東震 金 德換 李 鐘 他 박철 金 仁洙 고래우 金 英才 김 신주 趙 王光 尹 汝德 金 鳳周 歴史学会 李 光奎・金教秀 李 炫熙 申 福龍 慎 鎭庚 趙 素昂 李 萬珪 全集発行委員会 全集発行委員会 李 炫熙 金 錫營・李 炫熙 李 炫熙 李 仁榮 李 龍範 尹 炳燮 朴 煥 金

◆新着図書御案内◆

- ・日帝時代と漁村の文化変容 上下
 甲午農民戦争原因論
 ・韓国道教 現代的照明
 ・白山學報 39号
 ・천지의 서문
 ・アジアの中の日本史(ⅢⅣⅤ)
 ・韓国學報
 ・基督教思想
 ・韓・日基督教関連史
 ・韓国基督教青年学生運動史
 ・韓国史論 27・28・29
 ・朝鮮関係資料目録
 ・水平運動史研究(民族差別批判)
 ・韓国・北朝鮮地名便覧
 ・飯沼二郎著作集 第一巻
 ・미소녀 기동공의 미소녀 만화
 ・近世アジアの日本と朝鮮半島
 ・朝鮮輿地紀行 2
 ・親と子がみた在日韓国・朝鮮人
 ・趙素昂の抗日独立運動と三均主義
- 崔百城著
 具良根著
 韓国道教思想研究会
 白山学会
 민중의 소리
 荒野泰典他著
 一志社
 김소월
 김지하
 ソウル大学
 滋賀大学経済経営
 金静美著
 日本加除出版
 飯沼二郎著
 카로소리
 朝日新聞社
 朴尚得著
 韓国兵庫青年会議所
 青柳純一著

◇研究会云御案内◇

合同研究会 一九九四年五月二三日(日)

△第一部▽

在日朝鮮人運動史研究会 第二三六回例会

時間 午後一時半～三時

報告者 堀内稔氏

テーマ「併合」前の在日朝鮮人労働者

―朝鮮飴売りを中心に―

△第二部▽

朝鮮民族運動史研究会 第二六六回例会

時間 午後二時半～五時半

報告者 李 卓氏

テーマ「スターリン大粛正時期における

在日朝鮮人の関わり」

日韓キリスト教史研究会 第四四回例会

一九九四年五月二八日(土) 午後二時

報告者 後藤聡氏

テーマ「韓国のキリスト教 新興宗教」

*場所はいづれも青丘文庫にて